

南の風 487

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

486号の続きです。「環境」の次に話題になったのが、「**信頼**」ということについてでした。

誰も信頼していない人の言うことを真剣に聞こうとは思いません。真剣に聞いているように見えても、話の内容まで理解しようとして一生懸命聞くことはないでしょう。コーチと選手、選手と選手間のコミュニケーションは、人間関係によって大きく左右されます。だれかが発した言葉は、聞いている相手がすべて受け取ってくれるわけではなく、互いの「信頼」というフィルターを通して相手に伝わるのです。**選手に自分の考えや知識を伝えるのが仕事であるコーチは、まず選手から「信頼」を得なければならぬのです。**

例を挙げます。A コーチは技術や戦術をよく勉強していて、素晴らしい知識があります。B コーチはA コーチより知識量では劣ります。数字で表すとA コーチの知識量が100、Bコーチの知識量が80だったとします。しかしこれだけではまだ単純にAコーチのほうが優秀なコーチだとは言いきれません。

選手はBコーチの人柄を慕っていて、指導方法も心の底から信じています。一方のAコーチは選手のことを見下した態度をとってしまい、まだ十分な信頼を得ているとは言えません。

つまりBコーチの言葉は選手が100%理解してくれますが、Aコーチの言うことは60%しか受け取ってもらえないのです。

Aコーチの影響力は $100 \times 60\%$ で60。Bコーチは $80 \times 100\%$ で80。子どもたちの「信頼」のフィルターを通すと両コーチの優秀さは逆転してしまうのです。これが「信頼」の大切さです。

ただしコーチとしての知識や指導技術が40しかなければ、100%信頼されていても影響力は40。両方のバランスが大事だということはいまでもありません。

コーチと選手は師弟関係です。しかし結局はこれも人間関係ですから「信頼」の影響を大きく受けます。「コーチである」というだけで無条件に選手が信頼してくれるというものではありません。

選手から信頼されるかどうかは、コーチの知識だけではなく人間性が鍵です。コーチには人間としてどうあるべきか、どう振る舞うべきか、という本質的な部分が問われるのです。コーチという立場になると気づきにくくなりますが、自分が選手ならどういう人が信頼できるか、どういう人を信頼したいかということを考えれば、おのずと答えは見つかるはずで。私は、「**選手の成長を見守り、支援してくれる**」、「**約束を守る**」、「**言動が一貫している**」、「**自分の利益ばかり考えない**」というような人ではないかと思えます。信頼できない人というのは、この逆のような人ということになるでしょう。

こんなことは当たり前だと思うかもしれませんが、しかしこんな当たり前のことだからこそ大切なのだと思います。コーチには上に立つ者としてのプライドがあります。間違いを認めたくないときや、選手よりも優位に立ち続けたいという保身が頭をよぎることがあります。そんなときこそ気をつけなければいけません。例えば「ごまかし」。嘘をついているわけではないので一線を越えるハードルは低くなりがちです。選手から自分の知らないことを質問されたとします。コーチだからといって、すべて完璧に知っているわけではありませんから、わからないことがあって当然です。 次号にします。